2023(令和 5)年度

甲南女子大学

教育実習・合格体験記集

甲南女子大学　教職支援課

目　　次

1-1. 各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

✧　幼稚園教育実習　感想文　総合子ども学科　甲斐　百萌.....2

✧　小学校教育実習　感想文　総合子ども学科　上杉　萌夏.....4

✧　小学校教育実習　感想文　総合子ども学科　髙嶋　亜衣.....6

✧　合格体験記（幼稚園）　総合子ども学科　中谷　吏乃香.....7

✧　合格体験記（小学校）　総合子ども学科　加藤　佑佳.....8

✧　合格体験記（小学校）　総合子ども学科　中田　麗紅.....9

1-2. 各種体験記（日本語日本文化学科・国際英語学科-中高課程）

✧　高等学校教育実習　感想文　日本語日本文化学科　田村　結美.....10

✧　中学校教育実習　感想文　国際英語学科　渡邉　三咲.....11

1-3. 介護等体験記

特別支援学校における介護等体験の感想とまとめ

日本語日本文化学科　櫻井　華乃.....12

総合子ども学科　桑村　陽菜乃.....13

1-4. 各種体験記（医療栄養学科-栄養教諭課程）

✧　栄養教育実習　感想文　医療栄養学科　松岡　杏珠.....14

1-5. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

✧　目指す養護教諭像と学校で求められる力について

～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護学科　西川　菜月.....15

看護学科　東槇　志音.....17

看護学科　藤原　希光.....18

✧　養護実習実践発表会「養護実習を終えて」看護学科　笠島　桃花.....20

1-1．各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

幼稚園教育実習　感想文

総合子ども学科　甲斐　百萌

私は母園の公立幼稚園へ実習に行きました。実習園は、4歳児クラスと5歳児クラスの2クラスあり、私は5歳児クラスで実習を行いました。園児数が非常に少ない園ではありましたが、小規模園だからこそできる子どもと保育者の密接で丁寧な関わりを目の当たりにし、多くの事を学ぶことができました。毎日失敗と反省の連続でしたが、先生方の指導もあり充実した時間を過ごすことができました。

1か月間の実習を振り返って、私は特に次の2つのことを学びました。

1つ目は見守るという援助の重要性です。子どもへの関わり方として、子どもが意欲的に取り組めるよう声をかけることだけではなく、見守るという行為も重要な援助であり、保育者のねらいや願いが込められていることを学びました。園庭でやっとこの練習をしている時、後ろ乗りに挑戦している子どもを援助する機会がありました。その際、安定してやっとこに乗れるよう手で支えることや意欲的に取り組めるよう子どもの姿を認めつつ声をかけるという援助を行いました。しかし保育者は直接関わろうとはせず、子どもが一人で練習している姿を見守っていました。この様子を見て、私はもっと具体的なコツを伝えたり声をかけ続けた方が良いのではないかと考えていました。しかし、子どもは一人で練習する中で、練習方法を工夫する姿が見られ、最終的には一人で後ろ乗りができるようになっていました。このような子どもの姿を見て、あえて保育者が直接関わろうとしないことで、子ども自身がどうしたら良いのか考えることや、目標に向かって挑戦し続けることの重要さを自身の経験から気付くことに繋がるのではないかと考えました。

また、私はこれまで勝ち負けのある遊びにおいて悔しがったり落ち込んだりといった気持ちを切り替えることが難しい子どもに対しても、切り替えができるような声かけをしていました。このように気持ちを受け止めつつ切り替えができるよう促していくことも必要な援助ではありますが、子どもによっては見守るという形での間接的な援助を行い、マイナスな気持ちを乗り越えたり葛藤したりすることも必要な経験であることを学びました。このようなエピソードから、子どもと関わる際、一人ひとりの課題に合わせて、見守るという援助もできるようにしていきたいです。

2つ目は活動後の振り返りの必要性です。毎日の活動を観察していて、保育者は制作や運動遊び等の活動後、必ず子どもに「やってみてどうだった？」と問いかけ、子ども達が自身の活動を振り返る時間を大切にしていると感じました。最初はこの振り返りの意義について、子ども達の楽しかった・悔しかったなどの気持ちに共感することや、このような気持ちを子ども自身が言葉にして相手に伝える機会を設け、伝え合いを経験できるようにしていると考えていました。しかし、この2つ以外にも友達の頑張っている姿に気付き刺激を受けるといった友達の存在を認め合うことに繋がったり、友達の姿から子ども自身の行動を価値づけられたりすることを知りました。

この1か月の実習で特に印象に残っていることとしては、部分実習で行ったバナナ鬼ごっこが挙げられます。子どもの発達段階やどのようなことに対して興味を持ったり楽しさを感じているのかということを考慮して活動を考えることが難しく、題材決めから多くの戸惑いがありました。また指導案に関しても、子どもが理解しやすい説明や混乱しないような進め方を考えることが難しく何枚も指導案を書き直しました。実践も計画通りにいかないことが多くありましたが、臨機応変に遊びの回数を増やすなどの対応をしたり、細案

で様々な子どもの姿を考えられていたこともあり、無事に部分実習を終えることができたのではないかと思います。子ども達が笑顔で楽しく活動している姿を見て、やってよかったと思えることができました。何よりも、実習後にボランティアとして訪問した際に子どもたちが「先生バナナ鬼ごっこやろう！」と声をかけてくれたことが嬉しかったです。今回部分実習をやってみて感じた反省点や、反省会での先生方からの助言を次に活かし、より良い保育を実践していけるようにしたいです。

このように実習を通して様々なことを経験し、多くのことを学ぶことができました。ここで学んできたことを忘れず、これからの学びに繋げていきたいと考えます。

小学校教育実習　感想文

総合子ども学科　上杉　萌夏

小学校教育実習は、私にとって多くの学びを得た意義深い経験となりました。たった一か月という短い間ではあったものの、教師という職業の素晴らしさを身に染みて感じました。

私は一年生のクラスを担当させていただきました。初めは楽しみな気持ちが大きかった反面、自分に一年生の指導が務まるのか、どのように接しどんなことをすれば子どもたちと上手く関係を築くことができるのか、と不安な気持ちもありました。しかし、いざ実習が始まりクラスや学校の子どもたちを目の前にすると、それまでの不安が嘘のように毎日が輝いていてとても充実した一か月間となりました。

教育実習が始まり私がまず初めに心がけたことは、担任の先生や子どもたちをよく観察し自分から知ろうとする姿勢を忘れないこと、そして何事にも積極的に全力で向き合うことでした。観察を通して自分自身の知識や技能へと繋げられる学びを得ること、そして得たものを自分自身の活動へ活かすことを意識しました。その中でもたくさんの先生方の授業を観察したことは、この教育実習での学びの大部分を占めるものとなったように感じます。どの先生方も児童一人一人をよく見て、場面に応じた声かけや学習支援、そして何よりも「児童の意見や言葉」を大切に、愛を持った授業をされていました。その姿を実際に見て、自分もこんな授業を子どもたちと作っていきたいと強く思いました。

これらの思いから、「学ぶことが楽しいと思える授業」を自分の中の軸とし、意識的に授業作りを行いました。45 分間で、最大限に面白く、楽しく、学びある授業をするためには入念な準備とシュミレーションが大切であることや、その上で実際の児童の意見を取り入れながら進めていくことの重要さがよくわかりました。授業内では子どもたちがわかりやすい言葉で聞き取りやすく話すこと、失敗しても笑顔を絶やさず子どもに不安を与えないこと、泣いたり固まってしまった子どもがいても冷静に状況を判断し対応することなど、今の自分にできる精一杯を出し切りました。沢山の授業をさせていただけたこともあり、特に実習後半では自分自身も楽しみながら授業をすることができ、教えることや子どもと授業を作っていくことの楽しさを強く実感しました。

実習最終日に手紙と一人一言ずつのコメントをもらいました。その中には、「先生との授業が毎日楽しみだった」「休み時間たくさんお話して遊んだこと、忘れないよ」「またいつでも１－３にきてね」「先生になって、また小学校に戻ってきて」と、ここに書ききれないほどの嬉しい言葉をもらうことができました。子どもたちとの思い出や、実習の達成感、そして何よりも子どもたちからの言葉はとても心に響き、より一層強く教師になりたいと思わせてくれました。

今回の実習を通して、教師という職業の素晴らしさを改めて実感することができました。それと同時に、子どもたちの学習面だけに留まらず生活面も日々導いていく、そして六年間という大きな成長を遂げる時期に子どもたちと多くの時間を共にする教師は、やりがいがある分、責任もしっかりと持たなければならないと感じました。そして未熟な私に対して優しく指導して下さり、いつでも明るく強い熱意を感じる先生方や、素直で一生懸命で、かわいい笑顔と存在で元気をくれた子どもたちに恵まれ、貴重で有意義な時間を過ごせたことに本当に感謝しなければならないと思いました。

最終日に先生から頂いた、「子どもたちと接するときの表情や、何事にも動じず堂々としている姿はもう立派な先生ですね」というお褒めの言葉は、この先ずっと忘れられない大切なものとなりました。自分自身が大きく成長できたこの実習での学びや思い出、自分の課題

や強みをこれからも忘れず、そして感謝の気持ちを持ち続け、今回の経験を糧に今後も日々頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

小学校教育実習　感想文

総合子ども学科　髙嶋　亜衣

小学校教育実習は、一日一日が濃く、とても充実した毎日でした。子どもたちと一緒に学校生活を送る中で、担当クラスだけではなく、様々な学年の子どもたちと関わる中で子どもたちの接し方がとても重要だと実感しました。

私は一年生のクラスで実習をさせて頂きました。一年生と関わる中で感じたことは二つあります。一つ目は「当たり前を当たり前だと思わないこと」です。担当教員の先生は、ノートをとる際にノートの取り方を細かくテレビに写しながら行っていました。また、発問の際も「これは分かる」という発問でも子どもに分かりやすいように発問されていました。二つ目は「基礎が大切」ということです。新しい単元や次の学習に入るときでも、授業の中で一回は前回の復習を行うことや、活動の中で変化のある繰り返しを行い学習の基礎をつくることが大切だと学びました。

子どもたちとの関わりでは、一人一人と一日に一回は話すことを意識しました。一年生は元気で積極的に話しかけてくれる子どもが多いですが、中にはおとなしい子もいます。そのため、毎日自分から話しかけ子どもたちとコミュニケーションをとり遊ぶ時間を作りました。毎日子どもたちと少しでも話すことで心を開いてくれ、おとなしい子も積極的に話してくれるようになりました。実習最後の日には、「楽しかった。絶対先生になってね」と言ってくれたことをとても覚えています。どんなに忙しくても子どもたちと積極的に関わることで子どもたちと信頼関係ができ、この信頼関係が学級経営に繋がると感じました。

授業では算数と国語を多くさせて頂きました。授業づくりの中で一番気を付けたことは発問です。一年生は発問が難しいと学習が難しいので、分かりやすい発問ができるように常に意識していました。担任の先生には「一度考えたことをやってみて」と言っていただいたので、自分なりに考えて最初の授業づくりを行ったのですが、一年生の授業は思ったよりも難しく、発問など授業の内容だけではなく、子どもが集中して飽きないように指示を出すことや板書計画など、考えていた授業づくりを行うことができませんでした。その中で感じたことは発問と指示がとても重要だということです。発問では言い方次第でとても難しい発問になってしまいます。発問の内容を簡単にせず、どのように伝えれば発問が理解できるかを考え細かな部分でも丁寧に発問をすることを学びました。指示に関しても、一つの指示だけではなく、学習の間を与えないように次の学習を指示することで学習をスムーズに行うことができます。授業を行う中で授業の計画や展開を考えますが、授業の中での声かけや指示が一番難しく、重要だということを学びました。また指導計画を考えることも大切ですが、板書計画、ノート計画がとても重要だということを学びました。ICT を使った授業を意識しすぎて、板書やノートを使った授業が行えませんでした。小学校では文字を書くことがとても大切です。ICT 教育は必要ですが、ノートを書くことは低学年にとってとても大切なことだと学び、後半の授業では板書計画、ノート計画をしっかりと行い授業をしました。

教育実習を通して子どもとの関わり方や授業の計画、進め方など多くのことを学ぶことができました。授業では上手にいかない部分もありましたが、先生方が優しく教えてくださり、授業の流れや声かけなど沢山学ばせていただきました。この４週間で得た経験をこれからに活かしたいと思います。

合格体験記

総合子ども学科　中谷　吏乃香

私は、春から西宮市の幼稚園型の認定こども園に就職します。就職する園を決めたきっかけや就職活動の中で感じたことを紹介させていただきます。

私は、小学校の頃から幼稚園の先生になることが夢でした。幼稚園の先生になるためにこの大学のこの学科に進みましたが、実習に行く中で保育園や子ども園の魅力にもたくさん気付く場面があり、どこに就職するかをずっと迷っていました。そして、４年生の５月になり、就職フェアに行きました。実際に幼稚園や保育園の先生方とお話しすることができるので、園の雰囲気を感じることができました。就職フェアに行った中で、働いてみたいと思う保育園があり、園見学にも行かせていただきました。園見学に行かせていただき、採用試験を受けようと考えてもいましたが、どこかで「幼稚園の先生になりたい」という夢が諦めきれない自分もいました。

私が迷っている間に、周りの友だちはみんな就職先を決めていて、気持ち的にもとても焦っていました。早く決めないといけないと思う気持ちがどんどん大きくなっていきました。そんな中で、幼少期から習っているピアノの先生に「今からでも遅くないから、ずっと習ってきたピアノを活かせることができる幼稚園にも園見学にも行ってみるのはどう？」と助言をいただきました。そこで、迷っていた気持ちから「幼稚園の先生になりたい」という自分の気持ちが固まった気がしました。それから、西宮市で幼稚園を探し、園見学にも行きました。ゼミの先生方にもたくさん助言をいただき、自分の目で見て、幼稚園の先生として働きたいと思う園に出会うことができました。

私が就職活動を通して一番感じたことは、最後まで自分の気持ちに向き合うことの大切さです。少しでも迷っている自分がいるなら、何に迷っているかを明確にできるように、しっかりと向き合う必要があると思います。就職活動をするにも、たくさんの不安や戸惑いがあると思います。自分のしたいことや将来どのように働きたいかという気持ちに目を向けて、進んでいくことが大切だと学びました。私は周りの恩師や先生方の助言もあり、自分の気持ちに気付くことができたので、一人で抱え込まず、周りの人に頼るということも忘れないでいてほしいです。新しい気付きがあると思います。

最後になりましたが、私の合格体験記が少しでも皆さんの参考になれば幸いです。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

合格体験記

総合子ども学科　加藤　佑佳

小学生の頃から「教員になりたい」という夢があり、甲南女子大学に進学しました。

入学した頃には、新型コロナウイルスが流行しており、大学の授業もオンラインで友達とも先生とも直接学び合うことができませんでした。思い描いていた大学生生活とは違いましたが、自分の夢に繋がる学びができる喜びがありました。

教育実習では、元気いっぱいの子ども達と勉強したり遊んだりの毎日で楽しかったです。その一方で、授業を考えるなど大変なこともありました。ですが、授業を受けた子ども達が、「わかりやすかった！」と笑顔で言いにきてくれると、その大変さも忘れ、やりがいを感じることができました。3 年生の秋に教育実習終え、より教員の魅力に気づけたと思っています。

４年生になる２月には、大学で行っている教員採用試験対策講座を受講し、対策試験の勉強に活用していました。教員採用試験のポイントなどを先生が詳しく授業をしてくださったのでわかりやすかったです。また、面接対策も総合子ども学科の先生のサポートの下、たくさん行いました。そのおかげもあって、神戸市に合格することができました。子ども達に寄り添える教師になれるよう、時に厳しく時に優しく頑張って行きたいと思っています。

合格体験記

総合子ども学科　中田　麗紅

私は、この春から広島県の小学校で教員として働きます。小学生の頃から高校生まで勉強よりもバレーボールに力を入れて取り組んできた私にとって、勉強が中心となる生活はとても大変に感じることも多くありましたが、家族、仲間、友人、先生方など多くの方々の支えがあり乗り越えることができました。

教員採用試験を受けるまでの私の教育に関する経験や教員採用試験対策は以下の通りです。

教員採用試験を受けるまでに、放課後児童クラブでのアルバイトを経験しました。小学生と関わる中で大切なこと、様々な対応について学ぶことができ、とても良い経験となりました。

私が本格的に教員採用試験対策に取り組み始めたのは３年生の春休みです。それまでに参考書や過去問を集めたり、受験する自治体について調べたりと準備を行いました。春休みには東京アカデミーの講座が始まり、そこから本格的に勉強を始めました。苦手な分野、分からないことも多くあったので、友人や先生に積極的に聞きに行き、何度も何度も繰り返し解きました。筆記対策と並行して、実行委員が計画してくれた勉強会に参加し、実技対策も始めました。面接、模擬授業、場面対応等、仲間と切磋琢磨しながら練習を重ねました。上手くできないことも先生や仲間にアドバイスをもらうことで改善していきました。４回生になってからは、平日は友人と図書館や空き教室で、休日は家の近くのカフェを利用し勉強をしていました。図書館には様々な自治体の過去問や参考書があるので、自分が受ける自治体以外の過去問を解いてみたり、重点がまとめられている本を借りて仲間と問題を出し合ったりと少し楽しみながら勉強を進めていきました。

教員採用試験期間を振り返ると本当にたくさんの方に支えられ、周りに恵まれていると強く感じます。勉強から逃げたくなることも多くありましたが、仲間と共に奮闘した日々はとても充実しており、私にとってかけがえのないものになりました。教員として働くことに多くの不安もありますが、理想の教員になれるよう日々努力を続けていきたいと思います。たくさんのご指導ありがとうございました。

1-2. 各種体験記（日本語日本文化学科・国際英語学科-中高課程）

高等学校教育実習　感想文

日本語日本文化学科　田村　結美

私は自分の母校である高校に５月２９日から６月 16 日の３週間、教育実習に行きました。実習が始まる前に一度打ち合わせを行い、大まかなスケジュールや担当する授業範囲を教えていただきました。それをもとに１週間分の指導案を作成し、実習初日を迎えました。
前日はドキドキと不安でなかなか眠れませんでしたが､先生方やＨＲ担当クラスである２年５組のみんなが温かく迎えてくださったおかげでほっとしたことを覚えています。
私の場合、１週間目は授業見学がメインで、２週目から実際に授業を行いました。
模擬授業で経験を積んでいても、実際に授業を行うと自分の未熟さを痛感しました。
時間配分がうまくいかずに想定していた半分以下の内容で授業が終了することや、生徒にわかりにくい指示をしてしまい、生徒を混乱させてしまうこともありました。
授業対象が高校の授業にまだ慣れていない高校１年生なこともあり、授業構成やスピード、指示の仕方、順番など改善点を沢山見つけることができました。
授業を重ねるごとに試行錯誤し、その成果が出たのが最後の研究授業でした。
研究授業では、沢山の先生方に見られていることもありとても緊張しましたが生徒から「今までで１番分かりやすかった！」と１番嬉しい言葉を貰い、今まで頑張ってきて本当に良かったなと思いました。教科の先生方からは沢山のご指導をいただき、実際の現場で働いている方からの言葉はとても勉強になりました。
また、２週間目には文化祭があり、行事での先生の動きや生徒との関わり方についても勉強させて頂きました。
放課後には毎日文化祭の準備を生徒と一緒することで、沢山の生徒と距離を近づけることができました。毎日の授業準備や日誌などもこなしながらなので大変ですが、生徒と話すきっかけにもなり、とても良い経験をさせて頂きました。
本番まで一致団結し協力しながら何かを成し遂げる姿には感動しましたし、本番では私も参加することができとても良い思い出になりました。
授業準備や日誌など忙しい毎日でしたが、私は毎日学校に行くのがとても楽しみでした。
そう思うことができたのは間違いなく生徒のおかげです。
「先生の授業わかりやすい！」「ずっとおってや！」と言ってくれる生徒に支えられて３週間の教育実習をやり遂げることができました。
実習最終日には HR 担当クラスである２年５組から感謝のお手紙とプレゼントを頂き、泣いてくれている子も沢山いました。この 3 週間自分なりに一生懸命生徒と関わってきて良かったなと思うことができました。
私は 4 月から神戸市の教員として教壇に立ちます。この教育実習での経験を活かして生徒と関わっていき、生徒とともに成長していきたいです。

中学校教育実習　感想文

国際英語学科　渡邉　三咲

私は母校の中学校で教育実習を行いました。実習中は教科指導に加え、学年集会、終学活、道徳、部活動を任せていただきました。毎日が慌ただしく、あっという間に過ぎ去った 3 週間でした。

教育実習の数週間前に担当教員の方とお話をする機会があったのですが、実習が始まる初日の 2 日間は中間テストだったため、担当教員の方もどこまで残りの数週間で進めるのかが分からない状態でした。そのため、事前に準備できることは書ける範囲の実習簿を書くこと、大まかにしたい事を考えることしかできることはありませんでした。不安はいっぱいでしたが、できる限りのことをしようと思いました。

実習が始まり、初日の 2 日間は授業見学や生徒観察などが一切できず、教材研究をし、指導案を作成しました。担当教員に指導案を見ていただくと「なぜこれをするのか」「この活動をすることで、生徒に何を身につけさせたいのか」と問われました。しかし、私はうまく答えることができませんでした。大学で行ってきた模擬授業では 1 単元ずつ行っていましたが、実際の現場ではその 1 単元をただこなせば良いだけでなく、その 1 単元をきっかけに生徒の将来的な英語力をどのように引き上げるのかを考える必要がありました。私はそれをしっかり考えることができておらず、指導案を出しても真っ赤な状態で返ってきていました。しかし、少しの合間にも生徒、指導案、教材と向き合う時間を取り、仕上げることができました。

2 週目から教壇に立たせていただきました。生徒に聞き取りやすく、ゆっくりと大きな声で話すことを意識しました。不慣れで緊張した授業でしたが、生徒たちはまっすぐ前を向き、私の声にしっかりと応えてくれました。どんなに大変なことでも一生懸命授業をすることでその気持ちは生徒にも伝わっているのだと感じました。休み時間にも生徒たちは話しかけてくれ、「先生ずっといて～」「月曜から先生おらんのむり」と私を受け入れてくれる言葉を伝えてくれ、3 週間どれだけしんどくても生徒の笑顔のために頑張ることができました。

私は 3 週間の間で 5 クラス×4 単元の授業を行いました。たった 3 週間の 20 回の授業でも私にとっては毎日が慌ただしく感じました。しかし、それと同時に、この 3 週間は教員の方にとってはほんの一部分であることを改めて感じました。教員の皆さんは大変にも関わらず、生徒の前では常に一生懸命で、生徒のより良い未来を望み、進むべき道に進ませてあげようという気持ちが伝わってきました。

この 1 枚の紙に書ききれないほど、教育実習という経験は私に新たな価値観や出会いを与えてくれました。3 週間の経験を活かし、日々成長していきたいと思います。

1-3. 介護等体験記

介護等体験の感想とまとめ

日本語日本文化学科　櫻井　華乃

私は二日間の体験を通して「教師のあり方とは何か」を考えました。

人が困っていたら助ける、と言う考えが私にとっての人に対する「優しさ」です。その考えは体験後も変わらないけれど、生徒たちはそのような「優しさ」を必要としていないこと、教員の皆さんはその「優しさ」の形を生徒一人ひとりに合わせていることを感じました。「困っていそうだったから」と言う理由だけで生徒が頑張ろうとしている事を横から援助する、というより奪ってしまいそうになりました。「自分でできるよ」と教えてくれた時、「すごいね」と言うべきなのか「ごめんね」と言うべきなのか、何が正解か分からなくて、何も言わずにただ見守るだけの時間を過ごしました。その後担任の先生が「今日も一人でできたね」と言った時に自分は何のために生徒と接しているのか、分からなくなりました。その子の状態や過去、どこまで学習できるか、何が好きか、どんなことで怒るかなど、知っておくべきことが多すぎてどう接していいか分からずに担任の先生とのやりとりをただ見つめているだけの一日になってしまい、当然後悔をしたし、自分の考えが間違っているような気がして、何が正解か分からないもどかしさを感じました。これまでの授業で何度も生徒との接し方や向き合い方を学んできたけれど、実際に学校現場に立ってみると何も学んでいない状態と同じなような気がしました。しかし、実際にその場に立って初めて学べたこともあります。生徒が助けを求めていてもその子の能力を見極めながら指示を出したり、場合によっては何も言わずに見届けることも必要だということ、そして、その過程で生徒が少しずつ成長していくのを待つことが大切だということ。この二つが私にとっての学びです。自分が向けた「優しさ」は教師の立場で考えるとただの自己満足にすぎないのだと、気がつきました。生徒のことを完全でなくとも理解し、一人ひとりに合わせて成長を見届けること、これが「教師のあり方」であると感じました。「優しさ」を持つことは大切だけれど、それをむやみに生徒にぶつけてしまう事はかえって生徒を傷つけることになる、だからこそ教師は生徒によって「優しさ」の形を変え、少しずつ生徒を理解していく必要があるのだと考えました。

二日間の体験で自分の無力さを感じる場面が多く、後悔をしてしまう事もありましたが、実際にこの目で教師と生徒のやりとりを見て、多くの学びを得ることが出来ました。また、教師の立場で生徒の成長を見ることが出来ることが凄く羨ましかったです。「教師のあり方とは何か」この二日間を通して考えを深めることが出来ました。正解はまだ分からないけれど、介護等体験を経て感じたことを大切に、今後も学んでいきたいです。

介護等体験の感想とまとめ

総合子ども学科　桑村　陽菜乃

大学生になって初めて経験した実習。私が二日間お世話になったのは兵庫県にある特別支援学校の高校一年二組でした。この学校に通う高校生の障害の症状は人によって様々で、異なる症状を抱えています。私に積極的に話しかけてくれる生徒もいれば、全くコミュニケーションを取ることができない生徒もいました。授業内容や教科は同じでも、Ⅰ型・Ⅱ型と、クラスの中で生徒たちは二つに分かれて授業を受けていました。自分で身体を動かすことができるか、支援が常に必要か、の違いによってどちらの型になるのか決めていると聞きました。Ⅰ型とⅡ型では教師の配置数も授業内容も異なっていて、私は支援が常に必要なⅡ型を見学していました。家庭科の授業で針山を作るためのなみ縫いをする学習では、縫い目を生徒自身で、あるいは教師がペンで書くことにより、布が縫いやすくなり、それが難しい生徒に対しては教師が布に針を刺し、抜く過程を生徒が行うなどしていました。ここで私が感じたのは、支援が必要であっても、あくまで支援であるため、教師の行動や言葉がけを聞くと生徒主体を大切にしているなと感じる場面が多かったです。

そして、私は、授業である衝撃を受けました。それはある生徒が突然、別の生徒に対して手を出してしまい、喧嘩してしまった場面での教師の対応です。何故なら、その教師は全力で怒っていたからです。その様子を見て、生徒と真から向き合うって素敵なことだなと感じました。私は、子どもに対して怒る必要があるなと感じた際でも、躊躇してしまいます。しかし、それは出来事から逃げてしまっているのではないかということに、その場面を通して気付きました。今後、何事に対しても逃げずに、必要だと思ったことと向き合う姿勢を大切にしたいです。子どもにとって何が必要なのかをよく考えて行動する上で、その一つ一つの行動に責任を持つことも教師の仕事です。私は子どもの笑顔を守るために、子どもと真から向き合い、頑張る姿を全力で応援することができる教員になりたいです。

「先生のおかげで頑張ることができた」この二日間で最も嬉しかった出来事がこの言葉を生徒から貰えた時でした。全力で応援したことが伝わったと思えた瞬間でした。それは、毎朝、授業の一環で行うランニングの時間で、一人の生徒の付き添いをした時でした。その生徒はⅡ型で常に支援が必要な生徒のため、私は並走していました。「いつも歩いてばっかりでこの時間は走ったことがない」とその生徒は言っていました。その言葉を聞き、私はその生徒と一緒に走りたいと思いました。そのためにはまずは行動しようと思ったため、私が先に走りました。すると、その生徒も軽く走っていました。言葉がけをしつつ、少しずつペースを上げると気付けば私の隣を走っていました。ランニングの時間を終えると笑顔でその生徒から「一緒に走ってくれてありがとう」と感謝されました。

私はこの二日間で「障害があるから～できない」という考え方はしてはいけないと思いました。障害があることは悪いことではなく、障害の有無は関係ない。教師の支援によって、障害があったとしても主体性、個性を伸ばし、生かすことができるため、その本来の力を引き出せるかどうかが教師の力だと学ぶことができました。この考え方をこれからも持ち続け、将来、小学校教諭を目指す私へ生かしていこうと強く思うことができた実習になりました。

1-4. 各種体験記（医療栄養学科-栄養教諭課程）

栄養教育実習　感想文

医療栄養学科　松岡　杏珠

教育実習の５日間という期間は、他の教諭を目指す実習生の方々よりも短い期間であることから、有意義に過ごすことができるように事前準備には時間をかけました。実習前には、言葉への不安が大きかったことを覚えています。大学の授業内で、模擬授業を行うこともありましたが、相手は小学生と前提しつつも実際には大学生を対象とした授業であることから言葉や授業内容が難しくても円滑に進みます。しかし、教育実習では児童に向けて授業を行うため、模擬授業ほどうまく進まないであろうと考えていたからです。授業を円滑に進めるためには、難しい言葉を崩す力や言語化する力つまり語彙力が必要であると考えました。私にはそういった力が劣っていると感じており、児童たちが理解できる言葉に変換できるのか、しっかり学んでもらえるのかという不安でいっぱいでした。教育実習で学んだことは、次の通り大きく２つあります。

１つ目は、児童との向き合い方です。実習前には児童との関わりが少ない中でどういった方法でコミュニケーションをとるのかと考えていたところ、栄養教諭は廊下で会う児童に積極的に話しかけ、以前話した内容や児童の嗜好、話し方までを覚えておられました。他にも、給食指導では１クラスずつ訪れて食材や献立のポイントを学年ごとに違う表現で伝えること、食缶が空になっていると全力で児童を褒めることを徹底されていました。児童の中には「食べよう」、「食べなさい」という声かけがかえって苦手意識を強くさせてしまう可能性があるということから、児童自身が給食の重要性に気付き、「少しでも食べてみよう」と思うことができる伝え方を栄養教諭から学ぶことができました。このような一歩下がったサポートをすることで児童が挑戦する気持ちへ繋ぐことができているのではないかと思いました。

２つ目は、栄養教諭の存在の大きさです。私は研究授業で、三色食品群に関する授業を行いました。その際に食品群の認識度合いを知るために、給食室付近の掲示物として活用されていた６つの基礎食品の写真や給食だよりを見せたところ、児童からは「先生と委員の人が貼り替えているやつや！」「見たことある！」といった声が上がりました。ご指導いただいた先生からは、「あの子たちはわからんって言うかも」と伺っていたのですが、児童はしっかりと見ていました。それらは栄養教諭からの発言や掲示物が上手く活用されており、児童の中で栄養教諭の存在が大きく感じられている結果であると学ぶことができました。

栄養教諭は他の教諭と比較し児童と関わる機会が少ないからこそ、一回のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築く、児童自身が気付く指導を心がけること、個性を尊重するために配慮する等を学ぶことができた５日間でした。

1-5. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護学科　西川　菜月

学校を取り巻く教育課題や児童・生徒の健康課題は多様化・複雑化しているため児童・生徒、またその保護者のニーズも多様化している。そのため、養護教諭は児童・生徒、また学校全体についての健康課題についてアセスメントを十分に行いながら臨機応変な対応が求められる。養護教諭の教育活動として、保健教育、保健管理、健康相談、保健室経営、保健組織活動が挙げられる。以上の養護教諭の活動について、卒業を前にして振り返って述べたい。

4 年次の「養護実習」後に、4 年間の教職科目の統合授業である「教職実践演習」では、看護学科教職課程の履修してきた学生間でプレゼンター―ションを行いながら共有し、学びを深めた。

特に、養護活動における上記の基本的活動はどの学校でも同じであったが、学校種別や学校規模、地域の特性、そして児童生徒の発達段階によって、健康課題も異なり、養護活動に特徴があることが実感できた。以下、4 年間で学んだことから養護教諭に求められる力とは何か、私なりに学んだことを伝えたい。

学校では近年、個別のニーズを要する児童生徒は増加傾向にある。そのため、特別な支援を要する児童・生徒が学校で適切な教育が受けることが出来るように配慮する必要がある。ここでも養護教諭は、特別な支援を要する児童生徒の早期発見・早期対応、また、特別な支援を要する児童生徒への配慮について教職員や医療、家庭、福祉、専門機関等と連携し多角的に支援していくことが大切であると理解できた。さらに、特別な支援の必要な児童生徒だけを見るのではなく、その保護者のニーズも様々であり、保護者のニーズを尊重することも大切であると学んだ。

養護教諭は、健康教育にも参画する。実際に保健の指導授業を実施する際は、ユニバーサルデザインの環境づくりへの意識をもち、特性に応じた視覚的に分かりやすい教材づくりが大切であることも教職課程の授業の中で学ぶことができた。

養護教諭は保健室での児童生徒の応急処置をする役割もあり、応急処置をするためには児童生徒の心身のアセスメントを的確に実施する必要がある。児童生徒の健康状態のアセスメントをする時に、器質的疾患の有無から優先順位の高い方からアセスメントをしなければならない。身体的な兆候がどのような場面でどのような状況で起こっているのか情報整理をし、場面を特定することで原因を推測できる。また、その状況や身体状況などについて記述の整理をしておくことで医療との連携においてスムーズになるため、具体的な状況の記録を残しておくことが大切である。

私たちが在籍していた時期、令和 2 年から新型コロナウイルスが蔓延していた。学生の立場だけではなく、児童・生徒の健康や安全を守るために感染対策について重視されていることを養護実習でも学ぶことができた。新型コロナウイルスの感染対策のために養護教諭は、感染対策についての正しい知識の普及や、物品の消毒や換気など安全を保つことができるような保健室経営、周辺の学校と情報共有し、地域の新型コロナウイルス感染拡大状況の把握、発熱や倦怠感など新型コロナウイルスの疑いがある児童・生徒の適切なアセスメントと対応が大切であるということを学んだ。現在は新型コロナウイルスの分類が 2

類相当から5類に引き下げられ、感染対策が緩和されている。しかし、完全に終息したわけではないため、児童・生徒が感染対策を自ら行うことが出来るように、養護教諭が感染対策についての知識をこれからも発信していく必要がある。

学校の健康や安全を守るためには、感染症対策だけでなく学校における事故も防止する必要がある。そのために、リスクマネジメントやクライシスマネジメントを行うことで予め危機において予測し対応していくことが求められる。危機発生時も発生時の危機管理や発生後の危機管理について予め想定しておくことで、速やかに被害を最小限にできる対応をすることが出来る。そのために、養護教諭は児童生徒の健康状態の把握、事故における適切な対応と安全対策、そして、児童のみならず教職員にも安全教育を実施していくことが大切である。学校事故において初期対応により生命に大きく関わることがある。そのため、事故発生時はいつ、なぜ、どのようにその事故が起こったのか、その事故の要因は何か、何が起こり得るか、事故や児童生徒の状態についてアセスメントする上でどのような情報が必要なのか、どのような対応が必要なのかを適切に判断し、保護者や教職員、医療、その他専門機関と連携し、適切な対応をすることで重症化を防ぐことが出来ると考えた。

最後に、夢が叶い、養護教諭の道を選択していく私の目指す養護教諭像を述べたい。

児童生徒の個人の特性に合わせた関わりや指導を大切する。そして、大学で学んだ経験を生かして、保健室対応では的確な児童生徒の心身の健康状態のアセスメントを意識しつつ、教職員や専門機関等と積極的に連携して対応できるようになりたい。児童生徒と学校全体の健康と安全を守っていく力をつけていきたい。

夢に向かってがんばります。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護学科　東槇　志音

養護実習と 4 年間の授業を振り返り、養護教諭に求められる力について考え、自身の目指す養護教諭像についてもより具体的に描くことが出来ました。

まず保健教育では、生徒が関心・興味を持つような導入から始め、生活と関連させることが出来るような指導を行うことで生徒がより知識を身に付けることが出来ると考えます。そして、保健室来室時の問診表などを生徒自身が主体的に記入することでより生徒が自分自身の心身と向き合うことができ、そこから保健教育へと繋げていくことも重要になることは、養護実習を経験することで改めて実感しました。また、保健管理も、日々学校全体の欠席者の内訳の整理、感染症の流行の把握、そして来室者記録を集計し健康問題や疾病の傾向を分析することでそこから生徒に行う保健教育、指導を考えて対策を行っていくことが分かりました。新型コロナウイルスが 5 類に移行したことによる学校保健での対応について、学校では 5 類へ移行した現在でも感染者の把握と感染を蔓延させない対応を求められていると実感できました。学校は感染が蔓延しやすいため、早期に対応を行っていくことがとても重要です。また、個別のアレルギー性疾患や特別な配慮を要する児童生徒は毎年の健康調査票を基に一覧表を作成することで、全教員への配布し情報共有を行うこと生徒が学校生活をより安全、安心して過ごすことができます。

保健室で養護教諭の行う健康相談は、学校外でのトラブルの対応を求められることもあることを知りました。生徒自身が上手く言語化できない場合には、生徒の心身の状態を引き出し、養護教諭が代弁者となることが必要であると感じました。近年は特に SNS 上でのトラブルやそれに起因する健康問題が多くなっています。健康相談を行う際、生徒のプライバシーを保護しながらも、第一に生徒の安全を最優先として担任の先生との連携や情報共有が必要不可欠になってきます。一方で生徒との信頼関係も崩さないよう情報の管理にはより配慮が養護教諭には求められます。

大学の教職の統合授業である「教職実践演習」で 4 年間の学びを振り返りました。看護学科の教職課程を履修していたメンバーとのグループワークを通して自分の理解が深まりました。同じ養護実習であっても学校規模、対象の年代、学校・地域の環境が異なると、来室内訳なども異なるため、一般的な知識に加えその学校の特性を踏まえて養護活動を行っていく必要がありました。

看護師の資格を持った上で今後養護教諭を目指すということは、より医療の専門的な知識を持った上で働くということになるということです。そのため、私はまずは看護師として力をつけていくことを選びました。これから病院の臨床現場で多くの経験をする中で、知識や技術だけでなく、冷静に対処する力を身に付けていきます。そして、いつか、幅広い知識と観察力を持つ、そして生徒が来室しやすい保健室運営を行える養護教諭を目指していきたいと思っています。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から総合的に振り返る～

看護学科　藤原　希光

私は、教職・養護科目、養護実習での学びを通して、養護教諭としての確かな判断力と対応力を持ち、また、児童生徒の心の拠り所となるような養護教諭になりたいと考えた。

はじめに、養護活動における保健教育についての考えを以下に述べる。養護教諭の行う保健教育には、子ども自らの生活習慣や環境を改善して、健康で安全な生活が実施できるようにする役割があると考える。私が実習で小学２年生を対象に行った保健教育では、食事・運動・睡眠など、生活習慣の大切さを知り、自分の健康についての課題を見出し、生活習慣の見直しを行うことができることを目標に授業を行った。その後の給食の際に普段好き嫌いをする児童が頑張って野菜を食べていたことから、生活習慣を改善し、養護教諭の行う保健教育の役割を果たすことができたと考える。

次に保健管理について、健康診断では、学校医の補助だけでなく、事前準備として児童に検診の意義や方法を伝える他、事後指導では、必要時には受診を進め、児童生徒の健康の保持増進を図ることの重要性を学んだ。また、感染症の予防については、コロナが５類に移行したことにより、黙食やマスクの着用は任意となっていたが、出席・感染状況を市の小学校と共有することにより感染状況を把握し、感染拡大を防止していた。

次に健康相談について、養護教諭は、児童生徒等の健康に関する専門的な観点から、また、学校保健活動推進の中核的役割を果たす立場から、健康相談の活動全体に関わる。近年の心の健康問題等の深刻化に伴い、学校におけるカウンセリング等の機能の充実が求められるようになってきている中で、養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめなどの心の健康問題がかかわっていること等のサインにいち早く気づくことのできる立場にあるため、養護教諭のヘルスカウンセリングがより一層重要な役割を担っていると考える。養護教諭の行うヘルスカウンセリングは、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を十分に生かし、児童生徒の様々な訴えに対して、常に心的な要因や背景を念頭に置いて、心身の観察、問題の背景の分析、解決のための支援、関係者との連携など、心や体の両面への対応が必要であると考える。

次に保健室経営について、私が実習で行った小学校の養護教諭は、保健室を「誰もが気軽に入れるところ」になるように心がけていた。保健室が開放的で、受容的な性質を持つことで、養護教諭は子どもの些細な段階での健康問題に気づくことが可能になり、予防的な保健指導ができるようになると考える。管理的な機能のみではなく、教育的な機能を持ち合わせた保健室経営が、養護教諭の実践の柱である保健指導の充実のためにも必要不可欠であると考える。

次に保健組織活動について、学校内での保健委員会活動だけでなく、PTA など学校と家庭、地域との連携・協働によって、ともに子どもの成長を支えていくことが重要であると考える。

学校規模に応じた養護活動については、私は中規模校での実習であったが、グループワークを通して、大規模・小規模校の特徴とその養護活動について考えることができた。大規模校は、来室者数が多いため、素早く緊急度や重症度を把握し、優先度の高い児童から処置を実施していく必要がある。また、養護教諭が２人体制であるので、情報共有が大切であることを学んだ。反対に小規模校は、児童数に対する教員数が多く、保護者の顔と名前、家庭環境も把握できるので、児童の普段の健康状態を把握しやすい点と、来室者数も少ないため、一人ひとりと関わる時間が長く、児童全員の観察や成長を見守っていくことができる点が特徴であると考えた。

次に、地域の特性に応じた養護活動について、私の実習校の校区の親は共働きをしている家庭が多いため、アフタースクールの設置や登下校中は地域の方が見守り隊として交通整備を行ってくれていた。また、他地域の小学校には、母子生活支援施設（DV 民間シェルター）が設置されていたことから、地域によって資源は様々あることを理解することができた。

養護教諭の複数配置については、公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の第 8 条により定められている。複数配置の意義については、児童生徒の心のケアや保健指導を十分に行うことができることであると考える。また、複数配置の課題については、養護教諭同士の相性や教育観が合わない可能性も出てくるため、複数配置は力を発揮するために「どのような子どもの姿を目指して保健室経営をしていくのか」を話し合っていく必要があると考える。

終わりに、4 年間の教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から、学校教育全体の理解を深めることができたとともに、学校保健の分野における養護教諭の果たすべき役割の理解を深めることができたと考える。また、実習を通して、自分のなりたい養護教諭像を確立することができたとともに、子どもたちとの直接的な関わりを通して、養護教諭としての資質力を高めることができた。養護教諭に必要な能力の向上のために日々自己研鑽し、養護教諭に求められる役割を十分果たせるよう、これからも学び続けていきたいと思う。

養護実習実践発表会
「養護実習を終えて」

看護学科4年　笠島桃花

①実習校の概要

・神戸市立小学校
教育目標⇒
子どもたちが小学校での学校生活を通して
知識だけでなく、礼儀や集団行動における役割、
モラル・マナー、生活方法を学び、愛情を受ける
ことで卒業しても生きていくことができるように
という思いが込められている

・学校環境：近くに中学校・高校があり、地域の方々も
見守り活動を行うなど、子どもたちの安全を地域一丸
となり守っている。

②実践内容

・保健室来室者対応
・研究授業（6年1組にて保健指導）
・発育測定、1年心臓検診、視力検査の実施
・朝のあいさつ活動
・授業見学・サポート
・病院受診の付き添い
・その他：休み時間の交流（放課後遊び）、健康委員会への参加、給食への参加、朝礼・職員朝礼への参加、空気環境検査に来られた学校薬剤師さんの案内

保健室来室者対応

・1日平均来室者数とその特徴について
・主な主訴：擦過傷、軽度の捻挫、倦怠感、更衣
・ほとんどが軽症であり、話がしたいという理由や、身長を測ってほしいといった来室も多い
・クラスへ行きにくいといった児童には保健室で過ごさせることもある ⇒保健室登校
・養護教諭不在の場合は他の教職員が対応
⇒学校全体で児童の安全と健康を守っている！

研究授業

テーマは「熱中症予防」

～気をつけたこと～

・説明の時間が多くなると退屈してしまう

⇒クイズやワークシートを用いて、考える・話し合う

などの時間をはさむ。児童の動きを意識！

・その時だけの知識にしない

⇒日常生活と絡めて指導。自分事として捉えられる！

発育測定

・会場設営

・身長・体重測定

・結果が気になる児童に対し、教えるだけでなく

「前より伸びてる」と声かけをおこなったり

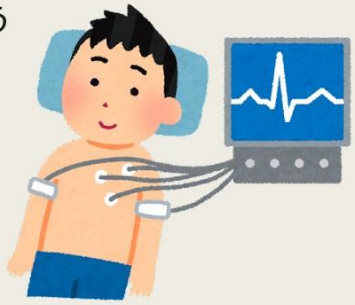
「今の年齢は女の子の方が成長が早い」といった

簡単な知識を交えて伝える ⇒ 個別の保健指導

・発達段階や個性に合わせた対応

1年心臓検診

・事前に教室にて流れと注意事項の指導
⇒イラストを用いて、簡単にわかりやすく説明
・当日も再度注意事項の説明を行う
・待機場所への誘導
・騒がしくなったら注意を行う



視力検査

・会場設営
・２・３・６年生の視力検査実施
・１・４・５年生には待機中の指導、誘導

・間違っていても態度に出さない ⇒不安軽減目的
・検査の中でも「答え」があるもの
⇒不安な児童もいるため、「大丈夫」などの肯定的な声かけも適宜行う

・発達段階に応じて説明方法や声かけの内容を変える
⇒待機中の児童への声かけも同じ！

・集中力が切れないようスピードにも気を付ける

朝のあいさつ活動

・毎朝校門にて実施
・毎日行うことで児童の様子や表情・顔色の変化や保健室に来室した児童の様子の観察・声かけを行うことができる。

⇒些細な変化にも気がつけるように！
⇒万が一の事を予防することへと繋がる

・保護者や地域の人にもあいさつを行うことでより良い関係性を築くことができる

授業見学・サポート

・授業見学を行うことで、普段の児童の様子を知る
・児童と関わる時間が増え、信頼関係を築くきっかけとなる
・保健指導を行う際の参考
・授業中の様子を観察することで、体調の変化など些細な変化に気がつくことへと繋がる

病院受診の付き添い

・児童の安全を守るだけでなく、オーバートリアージであっても安心させるために受診することがある
・保護者への素早い連絡と対応が必要
・担任への素早い情報共有と連携が重要
・医師の説明をわかりやすい言葉にかえて説明
・書類の整理、記載（日本スポーツ振興センター利用手続き、災害報告書等）

その他

・休み時間の交流（放課後遊び）
・健康委員会への参加
・給食への参加
・朝礼・職員朝礼への参加
・空気環境検査に来られた学校薬剤師の案内

③学校における感染予防対策とその工夫から学んだこと

感染予防対策

- マスクは任意
- 給食の際は出来る範囲での黙食
- 給食の前に必ず手洗い
- 手洗い場には手洗いの方法が書かれている

学び

- 5類に移行したことにより個人での判断が重要
- 強制しないことにより児童の自由の幅が広がる
- 表情が伝わりやすく、顔色や表情の変化に気がつきやすい

④養護実習で自分自身の学び

・素早く正確な判断・対応を行う力が必要

⇒児童の安全が最優先！そのためには学びを怠らない

・児童と積極的に関わることが大切

⇒児童の様子を知り、些細な変化に気が付けるように

・児童の話を丁寧に、細かく聞く力が必要

⇒児童から伝えられる言葉だけでなく、背景を知る

・児童の強みや個性を活かした関わりが重要

⇒出来ることを本人に伝え、成功体験として自信へと繋げる

・教職員と積極的に情報共有・連携を行う

⇒養護教諭の立場から！報連相＋確認を確実に行う

⑤養護教諭を目指す人に伝えたいこと

・積極的に児童と関わること

⇒発達段階・個性に応じて関わり方は異なる。個別性に応じた関わりが求められるため、保健室以外でも児童と関わることが、児童の安全を守ることへと繋がる

・真摯に児童と向き合うこと

⇒丁寧な対応は必ず児童へ伝わる。真摯に向き合うことで児童も安心して保健室へ来室・相談することができる

・教職員と連携すること

⇒些細な疑問も全て報告・相談する。その一歩が児童の安全と健康を守る大きな役割を果たすこともある。実習生だからと遠慮せずに、先生方へ助けを求めることも大切

・常に学び続けること

⇒新たな知識を学ぶだけでなく、児童から学ぶ姿勢も大切。
子どもたちの力は想像しているよりもたくましく、心強い！
常に感謝の気持ちを持ち、子どもたちへ興味・関心を寄せることが大切

子どもたちだけでなく、先生方とも積極的に関わることで、たくさんのことを学ぶことができる1か月です！応援しています！

ご清聴ありがとう
ございました